

設置計画の概要

事項	記 入 欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の専攻の課程変更
リガナ 設置者	コリツダイカクホジシツ ナヲキョウイクダイカク 国立大学法人 奈良教育大学
リガナ 大学の名称	ナヲキョウイクダイカクダイクイン 奈良教育大学大学院 (Nara University of Education, Graduate School)
新設学部等において 養成する人材像	<p>①養成する人材像 本研究科は「広く教育関係諸科学を研究し、教育実践に関する科学的な研究を深めることによって、豊かな人間性と高度の専門的教養を備え、教育の理論と実践に関する優れた能力を有する教員及び教育者を養成すること」を目的とし、人間発達専攻では「人間発達に関わる教育諸課題の専門的知識をより深め、それを活用し、課題を探究し続ける力量形成を図る。人間発達に関わる教育課題について、特別支援教育及び幼年教育の視点、並びに教育学及び心理学の視点から探究することにより、教育実践を支える高度な専門性を有する教員」を養成する。</p> <p>②学生が身に付けるべき力量は、以下の通りである。 1. 幼児児童生徒の探究心を培うために、学びの原動力たる探究の魅力を伝えることのできる教育に関わる理論的・実践的力量 2. 学校教育・人間発達または教科教育に関する諸科学について、専門性を深めることができる研究的力量 3. 広い視野に立ち、自己の知識を絶えず振り返り、更新しながら現代の教育及び社会の諸課題に対応できる社会的力量</p> <p>③修了後の進路:教員</p>
既設学部等において 養成する人材像	<p>①養成する人材像 本研究科は「広く教育関係諸科学を研究し、教育実践に関する科学的な研究を深めることによって、豊かな人間性と高度の専門的教養を備え、教育の理論と実践に関する優れた能力を有する教員及び教育者を養成すること」を目的とし、学校教育専攻では「学校教育に関する諸科学に基づく理論的実践的な教育・研究を通して、学校教育実践を支える基礎論的アプローチによって、教育実践を支える高度な専門性を有する教員等の教育者」の養成を目指し、教科教育専攻では「学校教育、とりわけ、各教科教育学に関する諸科学に基づく理論的実践的な教育・研究を通して、学校教育での各教科の実践を支える基礎論的アプローチによって、教育実践に関する高度な専門性を有する教員等の教育者」を養成する。</p> <p>②学生が身に付けるべき力量は、以下の通りである。 1. 教育に関わる高度専門職業人としての理論的・実践的力量 2. 学校教育または教科教育に関する諸科学について、専門性を深めることができる研究的力量 3. 広い視野に立って現代の教育及び社会の諸課題に対応できる社会的力量</p> <p>③修了後の進路:教員</p>
新設学部等において 取得可能な資格	<p>専修免許状 ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 (国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語) ・高等学校 (国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、書道、保健体育、工業、家庭、英語) ・特別支援学校 (知的障害者、肢体不自由者、病弱者) ①国家資格 ②資格取得可能 ③課程修了要件に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が修了の必須条件ではない。</p> <p>人間発達専攻 (教育・心理専攻) において、以下の資格 ・学校心理士 ①民間資格 ②受験資格取得可能 ③受験資格取得は修了要件ではない。受験資格取得のためには、当該専攻外における開設科目の履修も必要。</p> <p>人間発達専攻 (発達教育臨床専攻) において、以下の資格 ・臨床発達心理士 ①民間資格 ②受験資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目の履修のみで受験資格取得可能だが、資格取得が修了の必須条件ではない。</p>
既設学部等において 取得可能な資格	<p>専修免許状 ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 (国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語) ・高等学校 (国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、書道、保健体育、工業、家庭、英語) ・特別支援学校 (知的障害者、肢体不自由者、病弱者) ①国家資格 ②資格取得可能 ③課程修了要件に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が修了の必須条件ではない。</p> <p>学校教育専攻 (教育心理学専攻) において、以下の資格 ・学校心理士 ①民間資格 ②受験資格取得可能 ③受験資格取得は修了要件ではない。受験資格取得のためには、当該専攻外における開設科目の履修も必要。</p> <p>学校教育専攻 (教育臨床・特別支援教育専攻) において、以下の資格 ・臨床発達心理士 ①民間資格 ②受験資格取得可能 ③修了要件単位に含まれる科目の履修のみで受験資格取得可能だが、資格取得が修了の必須条件ではない。</p>

新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員				
	学位又は称号	学位又は学科の分野					異動元			助教以上	うち教授			
							異動元							
新設学部等の概要	教育学研究科 [Graduate School of Education]	人間発達専攻 (修士課程) [Department of Human Development]	2年(ただし、長期履修学生の修業年限は、4年以内の許可された年数。)	9	-	18	修士(教育学)	教育学・保育学関係	平成28年4月	学校教育専攻			15	8
										計			15	8
既設学部等の概要	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員				
	学位又は称号	学位又は学科の分野					異動先			助教以上	うち教授			
							異動先							
既設学部等の概要	教育学研究科	学校教育専攻 (人間発達専攻に変更)	2年(ただし、長期履修学生の修業年限は、4年以内の許可された年数。)	10	-	20	修士(教育学)	教育学・保育学関係	昭和58年4月	人間発達専攻			15	8
										その他			3	3
										退職			1	1
										計			19	12
既設学部等の概要	教育学研究科	教科教育専攻	2年(ただし、長期履修学生の修業年限は、4年以内の許可された年数。)	40	-	80	修士(教育学)	教育学・保育学関係	平成16年4月	教科教育専攻			69	38
										退職			4	4
										計			73	42

【備考欄】

【平成28年4月】				【現行】				
課程	専攻	専修	入学定員	課程	専攻	専修	入学定員	
修士	人間発達	発達教育臨床	9	学校教育	教育科学	教育心理学	10	
		教育・心理						教育臨床・特別支援教育
修士	教科教育	国語教育・日本語日本文化教育	36	教科教育	国語教育・日本語日本文化教育	社会科教育	40	
		社会科教育						数学教育(情報を含む)
		数学教育						理科教育(文化財科学を含む)
		理科教育(文化財科学を含む)						音楽教育
		音楽教育						造形表現(美術・書道)・伝統文化教育
		造形表現(美術・書道)・伝統文化教育						保健体育
		保健体育						英語教育(異文化理解を含む)
		英語教育(異文化理解を含む)						生活科学教育
		生活科学教育						
		合計						
専門職学位	教職開発	学校組織マネジメントコース	25	専門職学位	教職開発		20	
		学習指導コース						
		生徒指導コース						
		特別支援教育コース						
合計		70				70		

※大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施

教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科人間発達専攻 新設)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
実践的科目	専攻共通															
	学校教育実践	1・2通	2					○		2						
	小計(1科目)	—	2					—		2						
	教育・心理専修															
	教材開発研究(教育発達科学)	1・2後	2					○		2	4				オムニバス	
	小計(1科目)	—	2					—		2	4					
発達教育臨床専修																
	教材開発研究(特別な支援を必要とする子ども)	1・2後	2					○		2	1				オムニバス	
	小計(1科目)	—	2					—		2	1					
	教育・心理専修	教育史特論	1・2前		2				○			1				
		教育史演習	1・2後		2				○			1				
		教育哲学・思想特論	1・2後		2				○							兼1
教育哲学・思想演習		1・2前		2				○							兼1	
道徳教育特論		1・2後		2			○								兼1	
教育課程特論		1・2後		2				○			1					
教育課程演習		1・2前		2				○			1					
教育方法特論		1・2前		2			○				1					
教育方法演習		1・2後		2				○			1					
教育社会学特論		1・2後		2			○			1						
教育社会学演習		1・2前		2				○			1					
人権教育特論		1・2前		2			○				1					
人権教育演習		1・2後		2				○			1					
生涯学習特論		1・2前		2			○				1					
生涯学習演習		1・2後		2				○			1					
学校経営改善特論		1・2前		2			○				1					
学校経営改善演習		1・2後		2				○			1					
教育心理学特論		1・2後		2			○				1					
教育心理学演習		1・2前		2				○			1					
教育臨床心理学特論		1・2後		2			○					1				
教育臨床心理学演習		1・2前		2				○				1				
発達心理学特論		1・2後		2			○					1				
発達心理学演習		1・2前		2				○				1				
発達カウンセリング特論		1・2後		2			○								兼1 ※演習	
学習心理学特論		1・2前		2			○								兼1	
学校心理学特論		1・2前		2			○								兼1	
生徒指導特論		1・2後		2			○								兼1	
教育評価特論		1・2前		2			○								兼1	
心理検査法実習		1・2後		1					○		1	2			オムニバス	
小計(29科目)	—		57					—		5	5				兼6	
人間発達科目	子ども教育学特論	1・2前		2			○								兼1 ※演習	
	子ども教育学演習	1・2後		2				○							兼1	
	子ども心理学特論	1・2前		2			○								兼1	
	子ども心理学演習	1・2後		2				○							兼1	
	保育・教育内容論特論	1・2前		2				○			1					
	保育・教育内容論演習	1・2後		2				○			1					
	保育・教育内容論I	1・2前		2			○								兼1	

発達教育臨床専修	保育・教育内容特論Ⅱ	1・2前	2			○													兼1	
	発達教育臨床フィールド演習Ⅰ	1・2前	2			○			1	1										
	発達教育臨床フィールド演習Ⅱ	1・2後	2			○			1	1										
	発達教育臨床特論	1・2前	2			○				1										
	発達教育臨床演習	1・2後	2			○				1										
	教育臨床心理学特論	1・2後	2			○				1										
	発達心理学特論	1・2後	2			○				1										
	発達カウンセリング特論	1・2後	2			○													兼1	※演習
	学校教育カウンセリング特論	1・2前	2			○													兼1	
	臨床発達心理学特論	1・2後	2			○													兼1	
	特別支援教育学特論	1・2前	2			○				1										
	特別支援教育演習Ⅰ（特別支援教育学演習）	1・2後	2			○				1										
	発達障害心理学特論	1・2前	2			○					1									
	特別支援教育演習Ⅱ（発達障害心理学演習）	1・2後	2			○					1									
	児童青年精神医学特論	1・2前	2			○				1										
	特別支援教育演習Ⅲ（発達障害医学演習）	1・2後	2			○				1										
	発達障害医学特論	1・2前	2			○													兼1	
	特別支援教育方法学特論	1・2後	2			○													兼1	
	特別ニーズ・発達診断法特論	1・2前	2			○				2	1									オムニバス
	特別支援フィールド演習Ⅰ	1・2前	2			○				2	1									
	特別支援フィールド演習Ⅱ	1・2後	2			○				2	1									
障害児教育学特論	1・2後	2			○													兼1		
障害児心理学特論	1・2前	2			○													兼1		
障害児医学特論	1・2前	2			○													兼1		
小計（31科目）	—		62			—			3	4								兼12		
課題研究	教育・心理専修	教育・心理課題研究	1～2前・後	4			○			5	5									
		小計（1科目）	—	4			—			5	5									
	発達教育臨床専修	発達教育臨床課題研究	1～2前・後	4			○			3	1									
		小計（1科目）	—	4			—			3	1									
教育課題探究科目	世界の中の奈良—伝統と継承・発信—	1・2後			2	○													兼8	
	ESDの理論と実践	1・2前			2		○												兼1	
	新しい学びと授業構成（国語）	1・2後			2		○												兼9	
	新しい学びと授業構成（社会科）	1・2後			2		○												兼1	
	新しい学びと授業構成（算数・数学）	1・2前			2			○											兼5	
	新しい学びと授業構成（理科）	1・2後			2			○											兼15	
	新しい学びと授業構成（音楽）	1・2前			2			○											兼5	
	新しい学びと授業構成（保健体育）	1・2後			2		○												兼5	
	新しい学びと授業構成（英語）	1・2後			2		○												兼3	
	新しい学びと授業構成（家庭科）	1・2前			2			○											兼4	
小計（10科目）	—			20		—												兼54		
合計（75科目）		—	14	119	20		—		8	7								兼71		
学位又は称号		修士（教育学）		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係												

改組の趣旨・必要性

I 改組の趣旨・必要性

(1) 第3期中期目標計画期間を見通した教員養成高度化の趣旨

本学大学院教育学研究科は、「広く教育関係諸科学を研究し、教育実践に関する科学的研究を深めることによって、豊かな人間性と高度の専門的教養を備え、教育の理論と実践に関する優れた能力を有する教員及び教育者を養成する」（「学則」第20条）ことを目的としており、大学は「ミッションの再定義」において、次の特色・社会的役割を基本目標としている。

「奈良県教育委員会等との組織的な連携・協働により、地域密接型を目指す大学として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに奈良県における教育研究活動や社会貢献活動を通じて、我が国の教育の発展・向上に寄与すること。」

また、第2期中期目標においては、「大学院課程においては、学士課程との連携を図るとともに、現職教員及び社会人のリカレント教育を含む高度専門職業人としての、リーダーシップを発揮できる教員」の養成を大学の基本的な目標と定め、下記の点をカリキュラム・ポリシー（CP）に関する目標としている。

「高度専門職業人養成及び現職教員研修の視点を踏まえた教育内容の充実を図り、大学院の各専攻の特色を生かしたコースワークに沿った体系的なカリキュラムを編成する。」

これらの目標達成に関しては、奈良県教育委員会との協議会における定期的な意見交換（養成する人材像、カリキュラム、現職教員の研修等）を踏まえ、基礎的・基本的な知識と技能を重視しつつ、21世紀を生き抜く能力を育む「新たな学び」に対応する高度な教育実践力育成のため、学部・大学院における学びと現職教員研修を見通した「課題探究型学習」を支える教育を展開し、実践型教員養成機能への質的転換に取り組んでいる。「課題探究型学習」は、教員自身が身につけるべき学習スタイルであり、幅広い教養を基盤として、相互学習を促すアクティブ・ラーニングの展開能力、情報収集・活用・提示に資するICT活用能力を有することが重要となる。そのため、教員としての教育実践力（課題把握力、子ども理解・指導力、教科指導力、職能成長力）を深化・発展させる一環として、修士課程においては実践的科目（学校教育実践、教材開発研究）を中心として、研究課題に対応した学校等での実践を踏まえた課題設定・探究と教材開発により、自ら「課題探究型学習」を実施し、学習を展開しうる能力形成を図ることとなる。

第3期中期目標計画期間においては、上記の実践型教員養成機能の更なる強化とともに、教育学部、附属学校園と一体となった教員養成の機能強化を図るため、第1ステップ（平成28年度）と第2ステップ（平成32年度予定）を設定し、教員養成の高度化を実施する。

(2) 各ステップの教員養成高度化の内容

○「第1ステップ」（平成28年度）の概要と目標

奈良県教育委員会と連携した教員養成・研修統合型の大学院教育の実施により、高度な教育実践力の育成を図る。そのために、専門職学位課程においては、入学定員を増すと同時に、義務教育段階の学校教育の諸課題に焦点化した履修コースの設置を行う。また、修士課程においては、入学定員を減ずるとともに、従来の学校教育専攻を改組して人間発達専攻に専攻名称等の変更を行い、学校内外の教育の営むならびに、幼児期から青年期までを見通した人間発達の諸課題に対応する。これらを通じて、専門職学位課程と修士課程における「養成する人材像」の差異化・明確化と実践型教員養成の充実にむけた教育課程の編成を行う。

○「第2ステップ」（平成32年度予定）の概要と目標

本学のミッションならびに特色・強みをふまえ、奈良県教育委員会と協働した教員研修、高大連携、現代的教育課題への対応などの取り組みにより、奈良県における教員養成機能の中核的役割の構築を図る。また、奈良県並びに地域における更に高度な教員養成・研修のニーズに応える。以上のため、専門職学位課程の更なる充実ならびに修士課程の特色化を図る。

(3) 人間発達専攻の必要性

人間発達専攻は従来の学校教育専攻を改組し、人間発達に関わる教育課題への対応という現代的ニーズに応えようとするものである。義務教育段階の学校教育に特化した専門職学位課程に対し、修士課程人間発達専攻は、幼児期から青年期までを見通した人間発達に関わる課題に、より多角的・総合的に対応しようとするものである。とりわけ、グローバル化など社会の急速な進展により人材育成像が変化している中で、今回の専攻の改組は、思考力・判断力・表現力等の育成など課題探求型学習を含む新たな学びに対応した、教職に関する高度な専門的知識（グローバル化と異文化理解・人権、道徳教育、いじめ等の生徒指導、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む）の学修への社会的ニーズの高さに応えたものとなっている。なお、現行においても、留学生を含めて、学校教育専攻は毎年10名程度（過去5年間に於いて6～16名で平均10名。なお志願者数は平均19名）の入学者がある。また奈良県では、今日までのところ教育委員会による現職派遣が幼稚園教諭ならびに特別支援学校教諭についてはないため、これらの校種の現職教員においては、本専攻夜間主の発達教育臨床専修へのニーズはとりわけ高い。

(4) 人間発達専攻の各専修で養成する人材像

1. 教育・心理専修では、学校教育および学校外教育の双方にわたる視野を有し、教育学または心理学に関する高度な知識と専門的な力量を持った教員を養成する。本専修での学修と研究を通し、児童生徒のアセスメント、学校におけるカリキュラム編成および教育方法の開発、学校組織の運営、人権教育ならびに社会教育・生涯学習等学校外教育のいづれかに関する高度な力量を形成するとともに、道徳や特別活動、総合的な学習の時間、生徒指導などの教科外教育や、教科間をつなぐ課題探求型学習を構想し、実践する力量を養成する。

2. 発達教育臨床専修では、子どもの発達と、その過程で生じうる様々な教育上の特別なニーズに関する高度な知識と専門的な力量を持った教員（幼稚園の教員ならびに特別支援学校の教員を含む）を養成する。本専修での学修と研究を通し、幼児期から青年期までの子どもの発達を適切に把握し、教育課題を発達的な視点から捉えることのできる力量ならびに、障害や不登校、いじめ問題など、教育上の特別なニーズに適切に対応することのできる力量を形成する。また、特別支援学校教諭としての高度な専門的力量（知的障害、肢体不自由、病弱の児童生徒への高度な指導力量と障害と発達に関する高度でかつ実践的な知識・理解など）を培う。

II 教育課程編成の考え方・特色

(1) 教育課程編成・実施方針

修士課程においては、以下の趣旨に基づいて教育課程を体系的に編成し、実施する。

1. 実践的科目では、現代の教育及び社会の諸課題に対する理解を深めるとともに、これらの課題を科学的に把握し、主体的に対応する実践的・指導的力量を育む。
2. 人間発達科目では、学校教育・人間発達または教科教育に関する諸科学の内容についての理解を深めるとともに、これらの内容を理論的・実践的に創造していく力量を育む。
3. 課題研究では、実践的科目及び人間発達科目で学んだことを統合し、自らの課題意識に即して研究を進め、修士論文作成を通じて教育実践に活用する力量を育む。
4. 教育課題探究科目では、教科内容や指導法に関する学修を深め、教育実践力を育成するとともに、学校における新しい学びや取り組みへの理解と対応力を育成する。

(2) 人間発達専攻の専修の特色

1. 教育・心理専修

学校教育ならびに人間発達に関する教育学と心理学の基礎理論に基づき、学校組織の運営、カリキュラム編成や教育方法の適切性、人権教育や社会教育・生涯学習のあり方、及び児童・生徒の個人差のアセスメント（評価）に関する高度な知識と技能を習得することを目的としている。教育学及び心理学の両アプローチにより、とりわけ道徳や特別活動、総合的な学習の時間、生徒指導などの教科外の教育や、教科間をつなぐ課題探求型学習を構想し、実践する力を養成する。

このため、教育・心理専修では、修士課程学生の必修科目である、専門分野の研究テーマを教育現場との関連においてとらえ、課題に対応した学校等での実践を通じて教育実践力を高める目的をもつ「学校教育実践」とともに、学校外の教育実践と学校教育実践を連関させ、道徳や特別活動、総合的な学習の時間、生徒指導などの教科外の教育実践を構想する力量を培う「教材開発研究（教育発達科学）」を実践的科目として設定する。さらに、これらを通じた学修を、教科の指導とつないで実践化する力量を培うため、教科教育専攻で開講される教科教育科目2単位を必修として履修させる。こうした科目の履修を共通のコアとしながら、教育学・心理学の専門科目を研究課題に応じて履修することで、学校教育および学校外教育の双方にわたる視野を有し、教育学または心理学に関する高度な知識と専門的な力量を持った教員を養成する。

2. 発達教育臨床専修

幼稚園および特別支援学校などの奈良県内外の現職教員をはじめ、働きながら教育臨床・発達支援に関する高度な専門性を身につけることを希望する者などのための夜間主の教育課程を特徴とする。幼児期から青年期までの子どもの発達を踏まえた、障害や不登校、いじめ問題など教育上の特別なニーズに対応する支援・指導のための高度な専門的力量を培うカリキュラムを中心とする。また、特別支援学校教諭としての高度な専門性（知的障害、肢体不自由、病弱の児童生徒への高度な指導力量と障害と発達に関する高度でかつ実践的な知識・理解など）を培うカリキュラムを含む。

とりわけ奈良県において幼稚園教諭、特別支援学校教諭の現職派遣がないため、修士課程に夜間主を置き、現職の研修ニーズに対応する。専門職学位課程が、通常学校の教員を主な対象とし、発達障害などを中心とする学びであるのに対して、修士課程の当専修では知的障害・肢体不自由・病弱などを中心とする専門的な学びを主な内容としている。

発達教育臨床専修では、修士課程学生の必修科目である、専門分野の研究テーマを教育現場との関連においてとらえ、課題に対応した学校等での実践を通じて教育実践力を高める目的をもつ「学校教育実践」とともに、子どもの発達と、その過程で生じうる様々な教育上の特別なニーズに関する高度な実践的力量を培う「教材開発研究（特別な支援を必要とする子ども）」を実践的科目として設定する。さらに、これらを通じた学修を継続的に深化させていくために、「発達教育臨床フィールド演習」もしくは「特別支援フィールド演習」の履修を推奨する。こうした科目の履修を共通のコアとしながら、幼年教育、教育臨床ならびに特別支援教育に関する専門科目を研究課題に応じて履修することで、幼児期から青年期までの子どもの発達を適切に把握し、教育課題を発達的な視点から捉えることのできる力量ならびに、障害や不登校、いじめ問題など、教育上の特別なニーズに適切に対応することのできる力量を持った教員を養成する。

修了要件及び履修方法	授業期間等	
<p>(修了要件)</p> <p>○国立大学法人奈良教育大学学則 第90条</p> <p>第1項 修士課程に2年以上在学し、学則第86条第2項(※)に定める単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者については、教授会の議を経て、学長が修士課程の修了を認定する。</p> <p>第2項 修士課程に在学する者で優れた業績を上げたものに係る修士課程の修了の認定については、前項中「2年」とあるのは「1年」として同項の規定を適用する。</p> <p>第3項 第1項に定める学位論文は、専攻の種類に応じ、研究指導教員の許可を得て、作品及び関連論文をもって代えることができる。</p>	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
<p>※国立大学法人奈良教育大学学則 第86条第2項</p> <p>学生は、奈良教育大学大学院修士課程履修規則に基づき、30単位以上を履修しなければならない。</p>	1時限の授業時間	90分

(履修方法)

学生は、各専攻・専修の修学方法に応じて、授業科目からそれぞれ次の単位数以上を履修しなければならない。

- | | |
|---------------------|------|
| 一 実践的科目 | 4単位 |
| 二 専修専門科目(人間発達科目) | 16単位 |
| 三 自由選択(教育課題探究科目を含む) | 6単位 |
| 四 課題研究 | 4単位 |

①実践的科目については、専修内の実践的科目4単位を必修とする。ただし、外国人留学生にあつては、研究指導教員の指導に基づき、専修専門科目、教育課題探究科目の履修により代替えすることができる。

②専修専門科目16単位については、各専攻・専修により次のとおりとする。

一. 人間発達専攻教育・心理専修にあつては、教科教育専攻における教科教育科目2単位を必修とし、専攻内の他専修の科目4単位を含むことができる。

二. 人間発達専攻発達教育臨床専修にあつては、他専修の科目4単位を含むことができる。

③自由選択については、自己の研究の目的及び教育実践力育成の観点に応じて、教育課題探究科目、所属専攻及び他専攻の開講科目から自主的に履修修得できる。

④課題研究については、研究指導教員と専修関係教員の指導助言により課題を定めて研究を行うが、必要に応じて関係教員の指導のもとに附属学校(園)、次世代教員養成センター等の協力を得ることができる。

教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科学校教育専攻 既設)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
修士課程 科目共	現代における学校教育の課題	1・2前	2			○			2					兼8	オムニバス
	小計(1科目)	—	2			—			2					兼8	
専攻 科目共	学校教育研究方法論	1・2後		2		○			5	3					オムニバス
	子ども理解特論(特別な支援を必要とする子ども)	1・2後		2		○			4						集中
	小計(2科目)	—		4		—			9	3					
教育学専修 学校教育科目	教育学特論	1・2前		2			○			1					兼1 兼1 兼1 隔年
	教育学演習	1・2後		2			○			1					
	教育哲学・思想特論	1・2後		2			○								
	教育哲学・思想演習	1・2前		2			○								
	道德教育特論	1・2後		2		○									
	教育課程特論	1・2後		2			○			1					
	教育課程演習	1・2前		2			○			1					
	教育方法特論	1・2前		2		○				1					
	教育方法演習	1・2後		2			○			1					
	教育社会学特論	1・2後		2		○			1						
	教育社会学演習	1・2前		2			○		1						
	生涯学習特論	1・2前		2		○			1						
	生涯学習演習	1・2後		2			○		1						
	人権教育特論	1・2前		2			○							兼1	
	人権教育演習	1・2後		2			○		1						
	生活科教育特論	1・2後		2		○			1						
	生活科教育演習	1・2前		2			○		1						
	学校経営改善特論	1・2前		2		○			1						
	学校経営改善演習	1・2後		2			○		1						
	教育マネジメント特論	1・2前		2		○								兼1	隔年、集中
	教育行政・制度論	1・2前		2		○								兼1	隔年、集中
	比較学校経営論	1・2前		2		○								兼1	隔年、集中
	幼年教育学特論	1・2後		2		○								兼1	
	幼年教育学演習	1・2前		2			○							兼1	
	幼年心理学特論	1・2前		2		○			1						
	幼年心理学演習	1・2後		2			○		1						
	保育内容論特論	1・2後		2		○			1						
	保育内容論演習	1・2前		2			○		1						
	保育内容特論Ⅰ	1・2前		2		○								兼1	隔年、集中
	保育内容特論Ⅱ	1・2前		2		○								兼1	隔年、集中
小計(30科目)	—			60		—			7	3				兼9	
教育学専修 科目共	教育学課題研究	1~2前・後	4				○		7	3					
小計(1科目)	—		4			—			7	3					

教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科教科教育専攻 既設)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
修士課程 共通科目	現代における学校教育の課題	1・2前	2			○			3	5				兼2	オムニバス	
	小計(1科目)	—	2			—			3	5				兼2		
専攻 共通科目	教科授業研究特論	1・2前	2				○		6	5				兼1	オムニバス	
	小計(1科目)	—	2			—			6	5				兼1		
国語教育・日本語 日本文化教育専修	教科教育 科目	国語科授業研究	1・2前	2		○			1							
	国語科教育学特論	1・2前	2				○			1						
	国語科教育学演習	1・2後	2				○			1						
	国語科教育方法論	1・2前	2			○								兼1	隔年、集中	
	国語科教材開発特論	1・2後	2			○			1							
	国語科教育内容論	1・2前	2			○								兼1	隔年、集中	
	小計(6科目)	—		12		—			1	1				兼1		
	教科科目	日本語学(基礎論)	1・2前	2			○			1						
		日本語学(音声・音韻の研究と教育)	1・2前	2			○			1						
		日本語学演習(音声・音韻の教材)	1・2後	2				○		1						
		日本語学(語彙・文法の研究と教育)	1・2後	2			○			1						
		日本語学演習(語彙・文法の教材)	1・2後	2			○			1						
		日本語学(文章・談話の研究と教育)	1・2前	2			○								兼1	隔年、集中
		日本語学演習(文章・談話の教材)	1・2後	2				○							兼1	隔年、集中
近代文学特論		1・2前	2			○			1							
近代文学演習		1・2後	2				○		1							
日本文学基礎論		1・2前	2			○			1							
古典文学特論		1・2前	2				○			1						
古典文学演習		1・2後	2				○			1						
日本文学方法論(古典文学)		1・2前	2			○								兼1	隔年、集中	
日本文学方法論(近代文学)		1・2前	2			○								兼1	隔年、集中	
日本文学内容論(古典文学)		1・2後	2			○								兼1	隔年、集中	
日本文学内容論(近代文学)		1・2後	2			○								兼1	隔年、集中	
漢文学特論		1・2前	2			○				1						
漢文学演習		1・2後	2				○			1						
言語文化特論		1・2前	2			○			1							
言語文化演習		1・2後	2				○		1							
日本語教育学特論	1・2前	2			○				1							
日本語教育学演習	1・2後	2				○			1							
伝統文化発信法Ⅲ	1・2前	2			○			1								
小計(23科目)	—		46		—			4	3				兼3			
国語教育・日本語 日本文化教育 課題研究	1~2前・後	4				○		5	4							
小計(1科目)	—	4			—			5	4							

	エントロピー	1・2後		2		○				1								
	小計（18科目）	—		36			—			4	2						兼3	
	数学教育課題研究	1～2前・後	4				○			4	3							
	小計（1科目）	—	4				—			4	3							
理科教育（文化財科学を含む）専修	教科教育科目	理科授業研究	1・2前		2		○			1								
		理科教育学特論	1・2後		2		○				1							
		理科教育学演習	1・2後		2			○		1								
		理科教育方法論	1・2前		2		○				1							
	小計（4科目）	—		8			—			1	1							
	教科科目	極微と極大の科学	1・2後		2		○			1								
		光と電子の科学	1・2後		2		○			1								
		量子物性の科学	1・2前		2		○					1						
		量子物性の科学演習	1・2後		2		○					1						
		分析化学特論	1・2後		2		○					1						
		分子構造論	1・2後		2		○										兼1	集中
		分子構造論演習	1・2前		2			○									兼1	集中
		高分子と環境	1・2前		2		○			1								
		有機反応論	1・2前		2		○			1								
		無機構造論	1・2前		2		○										兼1	隔年、集中
		反応設計化学演習（有機化学系）	1・2後		2			○		1								隔年
		実験設計化学演習（無機物理化学系）	1・2後		2			○		1								隔年
		生体構造論	1・2前		2		○					1						
		生体構造論演習	1・2後		2			○				1						
		保全植物科学	1・2後		2		○			1								
		保全植物科学演習	1・2前		2			○		1								
		生体機能論Ⅰ	1・2前		2		○			1								
		生体機能論演習Ⅰ	1・2後		2			○		1								
		生体機能論Ⅱ	1・2前		2		○					1						
		生体機能論演習Ⅱ	1・2後		2			○				1						
		生態科学特論	1・2前		2		○										兼1	隔年、集中
		流体地球科学	1・2前		2		○					1						
		流体地球科学演習	1・2後		2			○				1						
		固体地球科学	1・2前		2			○									兼1	
		固体地球科学演習	1・2後		2			○									兼1	
		地域地球科学	1・2前		2		○			1								
		地域地球科学演習	1・2後		2			○		1								
		宇宙・惑星科学	1・2前		2		○										兼1	隔年、集中
		環境教育各論（野生動物学）	1・2前		2		○										兼1	
		環境教育各論（野生動物学）演習	1・2前		2			○									兼1	
		文化財科学Ⅰ	1・2前		2		○										兼1	
		文化財科学演習Ⅰ	1・2後		2			○									兼1	
		文化財科学Ⅱ	1・2前		2		○			1								
	文化財科学演習Ⅱ	1・2後		2			○		1									
	伝統文化発信法Ⅰ	1・2後		2			○		1								集中	
	小計（35科目）	—		70			—			8	5						兼7	
	理科教育課題研究	1～2前・後	4				○			9	6						※実験	
	小計（1科目）	—	4				—			9	6							

音楽教育専修	教科教育科目	音楽科授業研究	1・2後		2		○							兼1		
		音楽科教育学研究	1・2前		2			○			1					
		音楽科教材特論	1・2前		2			○						兼1		
		音楽教育史	1・2後		2				○			1				
		音楽教育特論Ⅰ	1・2前		2			○						兼1	隔年	
		音楽教育特論Ⅱ	1・2後		2			○						兼1	隔年	
		小計（6科目）	—		12						1				兼2	
	教科科目	ピアノ演奏研究	1・2前		2				○		1					
		ピアノ伴奏研究	1・2後		2				○		1					
		声楽演奏研究	1・2前		2				○		1					
		声楽アンサンブル研究	1・2後		2				○		1					
		音楽創作指導研究	1・2前		2		○				1					
		音楽創作研究	1・2後		2		○				1					
スコアリーディング		1・2前		2		○				1						
音楽生理心理学特論		1・2前		2		○				1						
音楽生理心理学演習		1・2後		2				○		1						
小計（9科目）	—		18						3	1						
音楽教育課題研究	1～2前・後	4					○		3	2				※実技		
小計（1科目）	—	4							3	2						
美術教育専修	教科教育科目	図工・美術科授業研究	1・2前		2			○			1					
		図工・美術科教育学特論	1・2前		2		○			1						
		図工・美術科教育方法論	1・2後		2				○			1				
		図工・美術科教材開発特論	1・2後		2		○				1					
		書写・書道科教材開発特論	1・2後		2				○			1				
		書道文化論	1・2後		2		○								兼1 隔年、集中	
		小計（6科目）	—		12						1	2			兼1	
	教科科目	絵画造形特論	1・2後		2				○			1				
		絵画実践演習Ⅰ	1・2前		2				○			1				
		絵画実践演習Ⅱ	1・2前		2				○			1				
		彫塑実践演習Ⅰ	1・2前		2				○						兼1	
		彫塑実践演習Ⅱ	1・2前		2				○						兼1	
		彫塑教育実材研究	1・2後		2				○						兼1	集中
		デザイン実践特論	1・2前		2		○								兼1	集中
		デザイン教育演習	1・2後		2				○						兼1	
		美術史・美術理論特論（西洋）	1・2前		2		○								兼1	隔年、集中
		美術史・美術理論特論（美学芸術学）	1・2後		2		○								兼1	集中
		漢字書法演習Ⅰ	1・2前		2		○				1					
		漢字書法演習Ⅱ	1・2後		2				○			1				
		漢字書法演習Ⅲ	1・2後		2		○					1				
		仮名書法演習Ⅰ	1・2前		2				○						兼1	
		仮名書法演習Ⅱ	1・2後		2				○						兼1	
		仮名書法演習Ⅲ	1・2前		2				○						兼1	
		作品鑑賞論Ⅰ	1・2前		2		○				1					
		作品鑑賞論Ⅱ	1・2前		2		○				1					
		書道文化論演習	1・2後		2				○			1				
		書法芸術史特論	1・2前		2		○					1				
		書道芸術理論研究	1・2後		2		○					1				
		工芸技法研究	1・2前		2					○					兼1	集中
		工芸演習	1・2後		2					○					兼1	集中
		美術工芸文化財学特論（日本・東洋）	1・2前		2		○				1					
		美術工芸文化財学演習	1・2後		2					○		1				
		文化財記録保存特論	1・2前		2		○				1					
文化財記録保存演習	1・2後		2					○		1						
伝統文化発信法Ⅱ	1・2前		2					○		1						
小計（28科目）	—		56						4	2				兼6		
美術教育課題研究	1～2前・後	4						○		5	3					
小計（1科目）	—	4							5	3						

